

地域再生計画

- 1 地域再生計画の申請主体の名称
日田市
- 2 地域再生計画の名称
人・自然と歴史が輝くまち日田市
- 3 地域再生の取組を進めようとする期間
平成17年から約5年間
- 4 地域再生計画の意義及び目標

日田市は、北部九州の中心部に位置し、周囲を阿蘇、久住山系や英彦山系の美しい山々に囲まれ、市の中央には九州第一の河川、筑後川が流れている。古くから水郷、山紫水明の地などといわれ自然の豊かさ、美しさを称賛されている。また、福岡、大分、熊本方面につながる高速道路網をはじめとして、古くから交通の要衝であった。さらには、江戸時代に天領となり、九州の政治・経済・文化の拠点として、商業が発達し、独自の町人文化などにより栄華を極めた。しかしながら、今日の少子化や中核都市への人口流出などにより、年々人口は減少し、まちの活気や賑わいを失いつつある。

このため、先代が残し、築いてきた文化・歴史など豊富な地域資源を今後さらに活用していくことにより、まちが賑わい、人が生き活きと暮らし、さらには環境を重視したまちづくりを目指して、「環境」をキーワードとし、本市の資源である「水」「山」「まち」「人」の観点で地域再生を進め、地域経済の活性化や雇用の創出に努めていく。

(1) 「環境」

21世紀は環境の世紀といわれている。本市は平成10年度に環境の国際規格であるISO14001の認証を西日本の自治体ではいち早く取得、また生ごみと畜産糞尿等の適正処理と有効利用を行い循環型社会を構築するためのバイオマス発電の建設など環境問題に対し、先進的に取り組んできている。今後環境をキーワードとし、環境を念頭においた活動を行うことにより、次世代に自信を持って引き継ぐことができる、「人」と「自然」が共生した環境共生都市の実現を目指していく。

(2) 「水」...水が輝くため、水に親しみ、水と戯れる。水質の保全

日田市の中心部をとうとうと流れる三隈川（筑後川の通称名）は、古くは林業により搬出される木材を本市から約75km下流の大川まで運ぶ重要な交通網として、また鵜飼いや屋形船に代表される風情あふれる風光明媚な観光資源として、さらには農業や生活用水として様々な恩恵を市民にもたらしてきた。また、本市の豊富で良質な地下水を求めてサッポロビールや三和酒類、コクボ製氷などの水を原料とする企業が立地してきた。しかしながら、今日、河川の水質悪化や危険性、また道路交通網の発達などから、人々は川から離れ、川から距離をおいた生活を営むようになってしまった。

このような状況の中、民間団体による川と親しむイベントや行政による親水化事業の実施、さらには、住民と一体となり取り組んだ川の水量増加運動など、次第に川へ関心を持つ市民が増えてきている。今後も市民や観光客が本市にとって貴重な資源である川に親しみ、戯れられるよう、公共下水道の普及などによる水質の保全や河川整

備さらにはイベントの開催などによりその環境と機会を創出する。

これにより考えられる事業

水質の保全

川のイベント（川開き観光祭、リバーフェスタ in みくま川、川の楽校）

三隈川周辺整備

公共下水道及び浄化槽整備

日田の川づくり

（３）「山」…山が輝くため、山を守り育て、森林機能の向上と山村地域の活性化

本市の約 72 % を占める山林のうち、約 76 % は人工林である。この人工林による林業は古くから本市の基幹産業として、また日本有数の産地として今日に至っている。しかしながら、昨今の外材の輸入、担い手の高齢化や後継者の不足、国産材の価格低下などに加え、平成 3 年及び昨年台風災害による人工林の倒木などにより、産業としての林業は衰退の一途をたどっている。山林は経済的価値だけでなく、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化防止、レクリエーションや教育など公益機能が重視されている。

このため、近年、広葉樹植林による公益的機能の増進、また地域間交流による植林などに取り組んでいる。今後も公益的機能を重視した山づくりを進めるとともに、地場産業である林業の復興を図るため林業従事者の就業条件を改善し雇用の創出を図る。また、山村地域の資源を活用した地域間交流を進めることにより交流人口の増加を目指していく。また、木材の大消費国である中国の経済は急成長中であり、この国への木材の輸出、さらには不足する林業従事者を補うため招聘等を検討していく。

これにより考えられる事業

森林組合作業班員雇用安定推進事業

日田材需要拡大

森林整備

森林の公益的機能増進対策

水の森（ボランティアによる森林保全）

木材輸出のための支援

（４）「まち」…まちが輝くため、自分たちのまちを見つめ、資源を活かす

本市は江戸時代に幕府直轄地 天領として、九州の政治・経済・文化の中心地として繁栄した。その中心地であった豆田地区はこの時代の面影を今に残し、古い町並みを形成している。これら地域に残る貴重な資源は落ち着いた良好な景観を醸し出すとともに、そこに住む人や訪れる人の心を和ませ、年間約 53 万人の観光客で賑わっている。このため、豆田地区では国の重要伝統的建造物群保存地区の指定がなされたことによりまちづくりを進めるとともに、この他の資源もより良い状態で後世に残すため、アダプトプログラムに基づきボランティアによる公共施設の管理など、住民と一体となったまちづくりを進めている。

一方、中心市街地では商業形態や交通環境変化等により、都市としての魅力の核となる商業、文化機能など人が集う機能が低下し空洞化が進展している。このため、商店街の商品券発行やイベントの開催、さらには新たなまちの顔として老朽化した市民会館を総合文化施設として建替え、文化発信の地、集いの場とすることにより、中心市街地の賑わいを復活させようとしている。

このように、本市固有の自然環境や歴史・文化などを最大限に生かし、住む人が輝

き、またそこに訪れる人も満足する「日田らしさ・日田ならではの」まちづくり、市民や来訪者にとって魅力ある「日田市の顔づくり」を進め、うるおいや安らぎとともに、賑わいのあるまちをつくっていく。これらにより、交流人口の増加とそれに伴う新たなビジネスチャンスの創出、空き店舗の解消並びに就業機会の拡大を進めていく。

これにより考えられる事業

- 豆田地区伝統的建造物群保存
- 総合文化施設の建設
- 中心市街地の活性化
- 公園の整備（亀山公園、地区公園）
- アダプトプログラムの推進

(5) 「人」…人が輝くため、個性あふれるまちづくり

本市も時代の潮流といわれる少子高齢化や人口の減少が進んでいる。「まちづくりは人づくり」と言われるように、魅力あるまちづくりを進めるためには感性豊かで主体性と実行力、活力とやさしさを併せ持つ市民の存在が不可欠である。本市を代表する先哲に江戸時代の私塾「咸宜園」を開いた儒学者広瀬淡窓がいる。淡窓は咸宜園で、入塾する者全てを平等にするため、年齢、学歴、身分を奪う三奪法の取り入れ、毎月全塾生を考査し翌月に発表する月旦評などを取り入れる画期的な教育を行った。この咸宜園には現代のように交通が発達していない中、当時全国68カ国のうち66カ国、約4,600人が入門し、上野彦馬、大村益次郎、高野長英、清浦奎吾など幾多の英傑を輩出している。このように、人が輝くことにより、本市は全国から注目を集め、情報を発信していた。咸宜園の歴史が伝える偉大な人づくりの精神風土を生かし、「日田を誇り、伝統を受け継ぐ」人材の育成、社会の一員として生き生きと行動する「日田市の人づくり」を進める。

このため、高齢者の生きがい対策や地区公民館の運営委託による住民自らの生涯学習の推進、さらにはまちの魅力を向上するため、豆田地区の町並み保存や隈のまちづくりに代表される地区の個性を活かしたまちづくりなどを住民主体により推進する。また、学校統合による廃校舎など公共施設の転用を積極的に進め、住民活動と交流の拠点として整備していき、人材の育成に努めていく。

これにより考えられる事業

- まちづくり活動助成
- 市民環境活動の支援
- 地区公民館の運営委託
- 隈のまちづくりの推進
- 住民活動・都市との交流の拠点づくり

5 地域再生計画が地域に及ぼす経済的社会的効果

計画の内容が多岐にわたるが、今回の計画は「自己決定・自己責任」を基本に、自分たちのまちを自分たちで見直し、考え、行動する。行政はその行動に対し側面的に応援、もしくは拠点等となる施設を住民の意見を反映し、整備することとしている。このことにより、住民はまちに誇りと愛着が生まれ、定住の促進につながる。

また、数値的效果としては、次のとおりとする。

川でのイベント開催、豆田地区における国の重要伝統的建造物群保存地区としてのまちづくりなどにより、交流人口は現在260万人を平成20年には350万人を目標とする。

総合文化施設の建設や商店街主催のイベントの開催、商品券の発行などにより、中心市街地の賑わいを創出することにより、現在の中心市街地空き店舗数49店舗を平成20年には35店舗に、中心商店街来街者通行量は1日2,200人を平成20年には3,000人を目標とする。

及び による新規店舗の立地、並びに林業就業者の雇用条件を改善することなどにより雇用を創出していく。

- 6 講じようとする支援措置の番号及び名称
 - 201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化
 - 201002 民間事業者等の経済活動に伴う道路使用許可の円滑化
 - 212017 「地域交通会議（仮称）」の設置
 - 212028 まちづくり交付金の創設
 - 212030 河川占用における「包括占用制度活用ガイドライン」の策定等
 - 212031 「水辺の自由使用ガイドライン」の策定
 - 213004 エコツーリズムに対する支援
 - 230001 道路使用許可・道路占用許可の手續改善
 - 230003 バイオマスタウン構想の実現に向けた取組み
 - 230004 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化
 - 230009 良好な景観形成の推進
- 7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業
なし
- 8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
なし

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化

2 当該支援措置を受けようとする者

日田市
日田市商店街連合会
日田市まつり振興協議会
日田市体育協会

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

全国的な中心商店街の衰退は本市においても同様であり、大型店舗の郊外立地や高速道路の開通に伴う福岡方面への利便性向上により消費の流出とそれに起因した中心地の空洞化が進んでいる。このような中、商店街では消費者にとって魅力ある商業地域とするため、個々の店舗づくりや公道を利用した夏祭りや夜市など様々なイベントを開催している。また、25万人の集客がある日田川開き観光祭をはじめ、国の重要無形民俗文化財の日田祇園山鉦の運行などは、市民はもとより市外から多くの方が訪れまつりを楽しんでいる。さらには、市民の体力向上と健康保持増進を図るため、ひた42.195チャレンジウォーク大会や九州マスタース駅伝大会など種々のスポーツ大会が開催され、本市の地理的利便性から多くの人々が集い賑わっている。

それぞれの催しは、今日までの過程で、試行錯誤しながらも発展し、市民の活力や交流人口の増大など、地域の活性化に寄与してきた。

また、国の「歴史国道」の選定を受け、「美しいまちなみ大賞」の表彰を受けた豆田地区は、電線の地中化と古い町並み整備により、時代をタイムスリップできるロケ地として、十分に活用できる資源であると考えられる。

今後もこれら資源を活かし、企画内容の一層の充実やイベントの盛り上げを図り、ひいては地域の活性化を図る。また、これら催し等の実施にあたっては、当該支援措置により発出される通達を踏まえ、道路利用者、道路管理者等の合意形成に努める。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

201002 民間事業者等の経済活動に伴う道路使用許可の円滑化

2 当該支援措置を受けようとする者

日田市

日田市商店街連合会

日田市まつり振興協議会

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

全国的な中心商店街の衰退は本市においても同様であり、大型店舗の郊外立地や高速道路の開通に伴う福岡方面への利便性向上により消費の流出とそれに起因した中心地の空洞化が進んでいる。このような中、商店街は消費者にとって魅力あるものとするため、個々の店舗づくりや公道を利用した夏祭りや夜市など様々なイベントを開催している。また、25万人の集客がある日田川開き観光祭をはじめ、国の重要無形民俗文化財の日田祇園山鉦の運行などにより、市民はもとより市外から多くの方が訪れまつりを楽しんでいる。

それぞれの催しは、これまでの歴史の中、試行錯誤しながらも発展していき、市民の活力や交流人口の増大など、地域の活性化に寄与している。

今後もこれら催しの企画内容の一層の充実やイベントの盛り上げを図り、ひいては地域の活性化を図る。また、これら催し等の実施にあたっては、当該支援措置により発出される通達を踏まえ、道路利用者、道路管理者等の合意形成に努める。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

212017 「地域交通会議（仮称）」の設置

2 当該支援措置を受けようとする者

日田市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市の行政面積に占める山林の割合は約 72 % である。また、平成 17 年 3 月 22 日に周辺 2 町 3 村と合併を行うが、新市発足後は約 78 % が山林となる。こうした地域に点在する集落では、少子化に加えて若者の都市部への流出により高齢化が進んでいるが、これら高齢者の通院等の際の交通手段である地方バスは赤字で廃止された路線が多数あり、高齢者のための新たな交通手段の確保が急務となっている。

このため、住民、交通業者、行政等で組織する「地域交通会議」を設置し、コミュニティバスや乗合タクシー、また N P O 等によるボランティア輸送など、多方面にわたって地域の交通のあり方など、地域・利用者のための新たな交通手段の確保について検討していく。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称
212028 まちづくり交付金の創設

2 当該支援措置を受けようとする者
日田市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容
本市は、歴史的な町並みを有し、多くの観光客で賑わう「豆田地区」と、日田駅前を中心とした中心商店街である「中心地区」及び、「水郷ひた」のシンボルとなる三隈川（筑後川の通称名）に面し旅館街等も形成される「隈地区」のそれぞれ特色ある3つの市街地が形成されている。しかし、近年中心商店街においては商業の空洞化が問題となっており、活性化を図るには、それぞれの地域が特性を活かした振興と各拠点間の回遊促進を図る施策が必要である。

現在、中心地区において活性化の起爆剤との市民の期待を受けて、文化の拠点となる総合文化施設建設計画が進行しており、この施設建設と併せて関連する公園整備や道路整備、隣接する商店街の再生を図る必要がある。また、豆田地区の歴史的町並みは、後世に受け継ぐべき貴重な文化財としてより価値の高い町並みへとステップアップを図るため、伝統的建造物群保存地区の指定がなされたところであり、観光拠点の歴史的町並み保全、隈地区の水辺の景観整備などの事業を総合的に実施してまちの賑わいを目指したい。そのために、自治体の自主性と裁量で必要な事業を集中して実施できる「まちづくり交付金」の活用を検討する。

（取組の実施期間）
平成 17 年度～平成 21 年度

（取組により実現される行為や整備される施設等の詳細）

- ・公園整備事業
中央公園、駅北公園の整備（総合文化施設建設に伴い都市公園の整備）
月隈公園の整備（歴史的風致を顕在化活用するための整備）
- ・道路整備事業
市道寿通線の整備（中心地区の活性化を促すための車道舗装）
市道若宮友田線の整備（回遊性に富んだ歩道整備）
- ・地域生活基盤整備施設
一休みスポット（歩行者や自転車が快適に回遊できるように整備）
- ・まちづくり活動推進事業
日田エコロジーセンターの実施実験（空き店舗を利用した住民共同の環境保全活動の支援）
- ・事業活用調査
公共サイン基本計画調査（来街者に対する情報の提供）

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

212030 河川占用における「包括占用制度活用ガイドライン」の策定等

2 当該支援措置を受けようとする者

日田市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市は、市の中心部を三隈川が東西に流れており、「水郷^{すいきょう}ひた」と呼ばれ、全国「水の郷百選」のひとつにも選ばれており、昔から川に親しみ、様々な恩恵を市民にもたらしてきた。

行政においては、川に親しむため、河川敷地を利用した公園等整備し、市民はそこを憩いの場、散策の場としての利用はもとより、「水郷^{すいきょう}ひた」を取り戻そうと、本市最大の祭りである日田川開き観光祭の開催、水辺空間を利用したイベントとして市民自らが企画したりバーフェスタ in みくま川の開催、日田市ボート協会による小中学生のボート教室等で、川に親しみ、川を楽しむイベントが実施されている。

今後も河川を利用したまちづくりを進めるため、平成16年度中に発出される通知により地域再生計画区域内における河川占用許可の迅速化が図られることにより、計画から実施までの期間が短縮され、より円滑な事業が推進できる。

これにより、河川敷地を有効活用し、市民が川に関心を持ち、川の美化活動等への自主的参加が促進されることにより、良好な水辺空間の形成が図られ、併せて、河川への交流人口の増加が図られる。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

212031 「水辺の自由使用ガイドライン」の策定

2 当該支援措置を受けようとする者

日田市

日田市ボート協会

リバーフェスタ in みくま川実行委員

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市は、市の中心部を三隈川が東西に流れており、「水郷^{すいきょう}ひた」と呼ばれ、全国「水の郷百選」のひとつにも選ばれており、昔から川に親しみ、様々な恩恵を市民にもたらしてきた。

しかしながら、河川の水質悪化や危険性等から、市民の生活は川から離れ、川への関心がなくなってきた。

そこで、市民が誇りとする「水郷^{すいきょう}ひた」を取り戻そうと、本市最大の祭りである日田川開き観光祭の開催、水辺空間を利用したイベントとして市民自らが企画したりバーフェスタ in みくま川において、バナナボートやEボートを使用した交流ボート、生涯学習の一環としてのカヌー教室、日田市ボート協会による小中学生のボート教室等で、川に親しみ、川を楽しむイベントが実施されている。

このため、今後「水辺の自由使用ガイドライン」を活用することにより、イベント活動等を企画立案する上で効率化が図られ、更なるイベント内容の充実・拡大を図る。こうした活動により、市民が誇りとする「水郷^{すいきょう}ひた」を取り戻すとともに、交流人口の増大に努めていく。また、これらのイベントを通じて、市民が川に関心を持ち、川の美化活動等への自主的参加が促進されることにより、良好な水辺空間の形成が図られる。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

213004 エコツーリズムに対する支援

2 当該支援措置を受けようとする者

日田市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市の行政面積に占める山林の割合は約 72% である。また、平成 17 年 3 月 22 日に周辺 2 町 3 村と合併を行うが、新市発足後は約 78% が山林となる。こうした地域に点在する集落では、少子化に加えて若者の都市部への流出により山林や農地の荒廃が進んでいるため、地域の活力も急速に衰退している。このように、森林や農地の保全は環境問題のみならず山村地域の存続にも大きな影響を持っている。

上記問題に対処するため、本市が福岡市や北部九州等大都市圏とも 2 時間で交流できる環境にあるメリットを活かして都市との交流を促進し、交流人口の増加による農山村地域の活性化と森林の保全を図り、自然環境に恵まれた山村地域の魅力を都市部に情報発信することにより定住人口の増加に努める。

こうした計画の実行にあたっては、当該支援措置により提供されるエコツーリズムに関するノウハウを活用していく。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

230001 道路使用許可・道路占用許可の手續改善

2 当該支援措置を受けようとする者

日田市

日田市商店街連合会

日田市まつり振興協議会

日田市体育協会

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

全国的な中心商店街の衰退は本市においても同様であり、大型店舗の郊外立地や高速道路の開通に伴う福岡方面への利便性向上により消費の流出とそれに起因した中心地の空洞化が進んでいる。このような中、商店街は消費者にとって魅力あるものとするため、個々の店舗づくりや公道を利用した夏祭りや夜市など様々なイベントを開催している。また、25万人の集客がある日田川開き観光祭をはじめ、国の重要無形民俗文化財の日田祇園山鉦の運行などにより、市民はもとより市外から多くの方が訪れまつりを楽しんでいる。さらには、市民の体力向上と健康保持増進を図るため、ひた42.195 チャレンジウォーク大会や種々のスポーツ大会、九州マスタース駅伝大会など、多くの人々が楽しみ賑わっている。

また、国の「歴史国道」の選定を受け、「美しいまちなみ大賞」の表彰を受けた豆田地区は、電線の地中化と古い町並み整備により、時代をタイムスリップできるロケ地として、十分に活用できる資源であると考えられる。

それぞれの催しは、これまでの歴史の中、試行錯誤しながらも発展していき、市民の活力や交流人口の増大など、地域の活性化に寄与している。

今回の支援措置により道路使用許可・道路占用許可の手續が改善され、事業主体の負担が軽減されるという大きなメリットがあり、今後もこれら資源を活かし、企画内容の一層の充実やイベントの盛り上がりを図り、ひいては地域の活性化を図る。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

230003 バイオマスタウン構想の実現に向けた取組

2 当該支援措置を受けようとする者

日田市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市は、第4次日田市総合計画において、将来都市像を「人・まちの個性が輝き、響きあう共生都市」とし、まちづくりの基本方針として「人と自然が共生する環境にやさしいまちづくり」をうたうとともに、平成10年度には西日本の自治体としては最初の「ISO14001」を取得するなど「環境都市」の実現に向けて取り組んでいる。また、日田市環境基本計画で、「資源循環の育成」、「地球環境の防衛」等の資源循環型社会の形成、新エネルギーへの転換に取り組む方向を打ち出している。

そのような中、平成18年度には養豚糞尿処理対策としてバイオマス処理施設を建設・運営し、「家畜排泄物の管理と適正化及び利用の促進に関する法律」に対応するとともに、ゴミの分別収集を実施し生ゴミの処理をあわせて行なう計画を進めている。

他方、本市の基幹産業である林業及び製材業から排出される木廃材等を処理するための、「木質バイオマス」関連企業の進出も計画されている。

今後、地域環境の持続的な利用の観点から、物質・エネルギー循環を視野に入れながら化石燃料の代替物としての量的な充足を目指す新エネルギーを、バイオマス事業により導入することを検討していくために、「バイオマスタウン構想」による支援を活用していく。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

230004 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化

2 当該支援措置を受けようとする者

日田市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市の行政面積に占める山林の割合は約 72 % である。また、平成 17 年 3 月 22 日に周辺 2 町 3 村と合併を行うが、新市発足後は約 78 % が山林となる。こうした地域に点在する集落では、少子化に加えて若者の都市部への流出により山林や農地の荒廃が進んでいるため、地域の活力も急速に衰退している。このように、森林や農地の保全は環境問題のみならず山村地域の存続にも大きな影響を持っている。

現在、水資源環境への取り組みを通じ、都市圏から山林の保全・育成のため交流が行われている。福岡市や北部九州等大都市圏とは 2 時間で交流できる環境にある。今後も、このメリットを活かして都市との交流を促進し、交流人口の増加による農山村地域の活性化と森林の保全を図り、自然環境に恵まれた山村地域の魅力を都市部に情報発信することにより定住人口の増加に努める。

当該支援措置により、都市と農山漁村の共生・対流に関する施策について、関連施策情報がとりまとめて提供されることとなるが、上記取り組みの計画にあたっては、これらの情報を活用していく。

別 紙

- 1 支援措置の番号及び名称
230009 良好な景観形成の推進

- 2 当該支援措置を受けようとする者
日田市

- 3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市は、豊富な水と緑そして歴史に恵まれ山紫水明、風光明媚な地として親しまれている。平成元年には建設省の都市景観モデル都市の指定を受け、さらに平成 4 年には、豊かな水と緑と歴史に育まれた日田市らしい魅力ある町づくりを進め、今後も市民が愛着と誇りを持つ快適な環境の形成を図ることを目的として、日田市都市景観条例を施行した。

この条例に基づき、江戸時代に幕府直轄地天領として繁栄した当時の面影を今に残し、古い町並みを形成している豆田地区、新たにバイパスが完成しその後の開発等から景観を保全、形成していく必要がある日田バイパス周辺地区、神社仏閣を中心に古い建築物が建ち並び落ち着いた町並みを形成している寺町通り地区、豆田地区と同様に古い建築物が建ち並び、水辺との景観が調和している隈地区を都市景観形成地区として指定し、住民と一体となったまちづくりを進めている。

今後は、今回公布された景観法を適用し、貴重な資源を活かし、地域の個性をさらに伸ばしていく。